浄土真宗本願寺派

平和宣言

多くの尊い命が犠牲となったアジア・太平洋戦争が終結して、今年で68年になります。私は浄土真宗本願寺派を代表し、ここ千鳥ヶ淵にご参集の皆さまとご一緒に、国内外のすべての戦没者に対して、心よりの追悼の意を表し、また、ご遺族の方々の消えることのない悲しみを、あらためて深く心に刻みます。

私たちの平和への願いにもかかわらず、世界では今も各地で紛争が起こり、戦火が絶えることがありません。この瞬間にも、数多くの尊い命が失われ続けています。命の尊さを語りながら、命を奪い合うという矛盾したあり方に、私たち人間の愚かさを痛感せざるをえません。

罪悪深重と親鸞聖人が述べられたように、私たちの愚かさはどこまでも根深いものです。私たちは、阿弥陀さまの智慧の光に照らされてこそ、その愚かさに気づかされるのです。あらゆる命あるものは、過去から現在へ、現在から未来へと、無限の広がりをもって繋がっています。恒久的な平和を実現するためには、すべての生命の繋がりに目覚め、自己中心的なあり方、すなわち私たちの愚かさを克服していかねばなりません。

今もなお紛争が絶えない現実を目の当たりにし、これまでのあらゆる戦渦で犠牲になられた方々の心の無念さに、私たちはあらためて想いを寄せ、武器によっては世界の平和、全人類の幸福はもたらされないことを再度、共に自覚し、恒久の平和を目指すことを、今、ここに、あらためて誓いましょう。このことこそが、戦渦で亡くなられた方々を追悼することのまことの意味でありましょう。

「衆生病むがゆえに我もまた病む」という仏や菩薩の大慈大悲の心にはほど遠い私たちではありますが、阿弥陀さまの慈悲の光に包まれていることに気づかされる時、心を尽くして他者の痛みに寄り添い、希望ある未来の実現のために貢献しようという意志が生まれます。

尊い命が失われた歴史を後世に語り継ぎ、それを教訓として、自他共に心豊かに生きることのできる恒久平和の世界を実現するために、本日、私たちは「世のなか安穏なれ」との願いをこめて、日本各地で平和の鐘を響かせます。「響流十方」と響きわたるよう、この願いを世界に拡げてまいりましょう。

2013（平成25）年9月18日

総長　園城　義孝